



新潟大学広報誌

新大広報

Niigata University Campus Magazine

2007年冬号

No.166



大学 図書館 活用術

特集1



特集2

新潟県 中越沖地震

～新潟大学の活動～

健康コラム

メタボリックシンドロームは学生にも身近な問題

shindai NEWS

学務部からのお知らせ

CAMPUS INFORMATION

第48回新大祭／新潟大学Week

図書館活用術

Niigata University Library

大学

特集1

図書館へいらっしゃい

図書館を使っていますか？
 図書館は、勉強や研究にはもちろんのこと
 趣味や楽しみのための読書や視聴にもお役に立ちたいと思っています。
 みなさんのための施設なのに使わなかったらもったいない。
 毎日いらしている方も、まだいらしたことがない方も、図書館へいらっしゃ〜い!

施設案内

2F

■雑誌コーナー

雑誌コーナーでは、ソファにゆったりと座って読むことができます。



■視聴覚コーナー

入口のすぐ左は視聴覚コーナーです。映画やドキュメンタリーなどのDVD、ビデオ、CD、カセットがあります。ここのブースで楽しんでください。



3F

■学習図書

3階は学習図書が中心ですが、芥川賞や直木賞の受賞作品も集めています。約15万冊の図書があります。



■マルチメディアコーナー

マルチメディアコーナーには、学生用パソコンが65台あります。開館時間中ずっと利用できます。



入口

1F

■書庫

1階書庫には、約34万冊の図書と雑誌のバックナンバーがあります。思いがけない資料が見つかるかも。

1階書庫の利用時間は、平日8:30~17:00です。カウンターで入庫の手続きをしてください。この時間に来られない社会人学生の方には、1階資料の取り置きをしています。



え! 夜10時まで利用できるの!

開館時間

授業のある期間は、午後10時まで開いていますので、5時限の授業が終わった後でも、夜間主コースの7時限授業が終わった後でも、間に合います。

通常期間		開館短縮期間	
月~金曜日	土曜日・日曜日・祝日	●8/11~9/30 ●12/24~1/6 ●2/20~3/31	月~金曜日 土曜日・日曜日・祝日
8:30~22:00	10:00~17:00	8:30~17:00	休館

学習・研究へのお助けマン!!

図書館では、学習や研究に役立てていただくために、図書館の利用法や文献情報の探し方などのガイダンスを行っています。

1 スタディ・スキルズ関係の授業への参加

【時期】4月中旬~5月下旬

【内容】主に1年生を対象に、図書館の利用手続きと図書の探し方を中心に説明と実習を行い、必要に応じて図書館1階書庫のツアーを行います。

2 図書館ガイダンス

【時期】春季：5月下旬~7月中旬 秋季：10月上旬~12月上旬

【内容】主に学部3年生以上および大学院生を対象に、卒業(修士)論文のテーマに関する文献情報の検索・入手ができるように、各種データベースを使って説明と実習を行います。

レファレンスカウンターの活用を!

ガイダンス等の他にも、日常的にわからないことや文献の探し方など、お困りのことがあったらいつでも、レファレンスカウンターにおいでください。

使ってみては —リーダープリンター—

図書や雑誌・新聞など紙の資料は、劣化しやすく、収蔵スペースも多く必要です。そのため、保存の手段としてマイクロフィルム化が行われています。中央館では、上杉文書、法令全書、新潟日報など約200点のマイクロフィルム資料を所蔵しています。

中央図書館で最もよく利用されている「新潟日報」マイクロフィルム版は、新聞発行の約2か月後から利用できます。新聞よりも手軽に利用できますので、こちらを利用されるのも良いと思います。新潟日報マイクロフィルム版の所蔵年は、1942年~1965年、1978年~2007年です。1966年~1978年は縮刷版を所蔵しています。

リーダープリンター 利用時間等

- 利用時間：開館時間中
- 印刷できる時間：平日 9:00~11:45 13:00~16:30
- 印刷費用(私費の場合)：学内者/1枚30円 学外者/1枚60円



電子ジャーナル — 学術雑誌をインターネットで提供 —

電子ジャーナルとは、「オンラインジャーナル」「EJ」とも呼ばれる「インターネット上で提供される学術雑誌」のことです。新潟大学で利用できる電子ジャーナルは、下記のとおりですが、この他にフリーアクセス（無料）のものもあります。本学は、国立大学法人の中ではトップクラスのタイトル数を購読しています。

■ 出版社系

サービス名	分野	説明
ACM Portal	情報処理	Association for Computing Machineryの電子ジャーナルサービス。
ACS Web Edition	化学	American Chemical Societyが出版する主要雑誌33誌。1996年から最新号まで利用可能。
AIP Journals	物理学	[Journal of Applied Physics] [Applied Physics Letters]の2誌。2002年から最新号まで利用可能。
APS Journals	物理学	Physical Review各誌など8誌。初号からのバックナンバーも Physical Review Online Archives (PRORA) で利用可能。
Blackwell Synergy	人文・自然科学	Blackwell社が出版する雑誌約800誌。1997年から最新号まで利用可能。
Cambridge Journals Online (CJO)	全分野	Cambridge University Press出版の約200誌。提供されている全てのバックファイルが利用可能。
Cell Press Online	生物学	[Cell]、[Current Biology]、[Molecular Cell]、[Neuron]、[Immunity]の5誌。ScienceDirectを通して提供されており、フルテキストは1995年以降最新号まで利用可能。
Chemical Communications	化学	Royal Society of Chemistryが発行している化学分野の重要誌。1997年以降最新号まで利用可能。
IEEE Computer Society Digital Library	情報処理	IEEE Computing Societyが提供する雑誌23誌（バックファイルは初号まで遡って収録予定）。Proceedings (1,700タイトル以上、1995年以降)も利用可能。
Journal of Biological Chemistry	生化学	American Society for Biochemistry and Molecular Biology発行の生化学分野の専門誌。JBC Papers in Press (速報版)も提供。
Nature	自然科学	Nature本誌と [EMBO Journal] [EMBO Reports]の2誌。1997年から最新号まで利用可能。
Oxford Journals	全分野	Oxford University Press発行の166誌。1996年から最新号までのカレント分と、1995年以前のアーカイブコレクションが利用可能。
Science	自然科学	American Association for the Advancement of Science発行の総合科学誌。1997年から最新号まで利用可能。
ScienceDirect	全分野	Elsevier社の雑誌約1,800誌。フルテキストは一部を除き1995年から最新号まで利用可能。
SPIE Digital Library 【五十嵐地区限定】	光工学	[J. Biomedical Optics] [J. Electronic Imaging] [Journal of Micro/Nanolithography, MEMS and MOEMS] [Optical Engineering]の4誌が利用可能。
SpringerLink	全分野	Springer社出版の約1,200誌にアクセス可能。Online Journal Archive (初号～1996年発行号のバックファイル)
Unibio Press (BioOne)	生物学	[Current Herpetology] [Journal of Mammalian Ova Research] [Mammal Study] [Ornithological Science] [Paleontological Research] [Zoological Science]の6誌が利用可能。
Wiley InterScience	科学技術・医学	Wiley社出版の雑誌約500誌。1997年以降最新号まで利用可能。

■ アグリゲータ系

EBSCOhost	Academic Search Premier	人文社会系を中心に理工・医学系までを網羅する総合的な雑誌論文データベース
	Business Source Premier	経済・経営・ビジネス分野の雑誌論文を収録
ProQuest	ABI/INFORM-Complete	ビジネス・経済関連の学術雑誌・一般誌・業界誌・新聞等を収録
	Health and Medical Complete	主要な臨床及び医療の専門分野を網羅

電子ジャーナル(購読外国雑誌)の平成18年、1年間の利用状況は、ダウンロード数が40万件を超え、1論文当たり約350円と費用対効果の面からみて、効率の良い使われ方をしています。

なお、不正使用が認められた場合、違反した個人だけでなく、大学全体として電子ジャーナルの利用停止というペナルティが科せられることがありますので、右の注意事項を守ってご利用ください。

注意事項

- (1) 利用対象者(新潟大学に所属する教職員・学生等)以外の第三者に利用させること
- (2) 大量データを一括ダウンロードすること
- (3) ダウンロードしたデータを複製・配布すること
第三者にコピーを配る、あるいはメール添付等で送信すること
- (4) ダウンロードした論文を翻訳・翻案・改変して公表もしくは他人に渡すこと

新潟大学学術リポジトリ (Nuar) — 学術研究成果等を世界に向けて発信! —

リポジトリは、インターネット上で公開する電子書庫です。新潟大学で生みだされた学術研究成果等をサーバに登録・蓄積して、広く世界に無償で公開・発信します。(http://repository.lib.niigata-u.ac.jp)



近年、学術雑誌論文を掲載する学術専門誌やそれを電子化した電子ジャーナルの購読料が、出版社の寡占化が進むなどの影響で高騰しています。その結果、購読者が減り、購読料がさらに高くなるという悪循環を招いています。

そのため、高額な商業学術雑誌に対抗しようと、欧米を中心にオープンアクセス運動が始まり、日本でも機関(学術)リポジトリが推進され、本学でも新潟大学学術リポジトリ(Nuar)の運用を、今年の5月17日に開始しました。

Nuarに登録される論文等には、検索のための情報(メタデータ)が付与されていますので、Googleのような検索エンジンで検索されるだけでなく、国立情報学研究所のJuNii+やミシガン大学のOAISterなどの全国規模、世界規模のデータベースの検索対象となり、個人のWebページで公開するよりも効果的に情報が発信されます。



Niigata University Academic Repository

Nuar(ニューアー)は、新潟大学学術リポジトリの愛称で、ロゴマークは、朱鷺をイメージしています。



お宝紹介 — 知っていますか? —

中央図書館では、漢籍・国書・古文書等の資料も所蔵しています。これらは、特殊資料室に保存されているため、目に触れる機会が少ないのですが、手軽に利用していただくため、ホームページに「貴重資料データベース」として画像を公開しています。また、中央図書館2階の資料公開コーナーやあさひまち展示館において、1年に数回テーマを決め展示公開しています。今回は、佐野文庫と堀家文書について紹介します。

佐野文庫

佐野文庫は、国書・漢籍5,237点、古文書約2,800点からなり、国書部門の内容は、文学・儒学・史学・漢学など多岐にわたります。佐野喜平太氏(新潟県三島郡出雲崎町)が明治・大正年間に収集した蔵書で、昭和35(1960)年に孫である佐野泰蔵氏から寄贈されました。佐野家は、江戸時代に佐渡への渡海港・北前船の寄港地として栄えた出雲崎湊の廻船問屋・地主で、屋号を泊屋と称しました。古文書部門は、佐野家の商業活動を示す「諸国客船帳」等と、尼瀬町名主の野口家(京屋)の文書からなります。



「北越雪中之図」
北越奇談 橋崑崙(茂世)著 文化9(1812)年刊本 全6冊

写真は、佐野文庫の「北越奇談」の巻之一、冒頭に掲載されている「北越雪中之図」。北越のイメージを印象づける挿絵ですが、本文には雪に関する逸話はほとんどありません。「北越奇談」は越後の伝説・奇談・怪談を集めた読み物で、柳亭種彦校合、葛飾北斎補画という、当時、江戸で注目を浴びていた2人の名を連ねて出版されました。作者の橋崑崙は出版当時、三条に住んでいたといわれています。なお、葛飾北斎の挿絵は全部で15点描かれています。

堀家文書

堀家文書は、越後国長岡・村上藩家老堀主膳家の文書です。総数は148点で、そのうち村上藩主堀直寄からの書状など56点が新潟県文化財指定を受けています。昭和35(1960)年に人文学部が購入し、附属図書館に移管されました。

江戸詰め堀直寄から堀主膳にあてた書状が多く、近世初頭の村上藩政を知ることのできる史料です。「貴重資料データベース」から148点のすべてを閲覧することができます。



堀直寄書状
[元和7(1621)年]2月24日 折紙1通

写真は、江戸滞在中の藩主直寄から国元の家老堀主膳に宛てられた書状。尾張中納言屋敷火事や沼新金山(岩船郡関川村)の開発、堤普請のことなど細かく書かれています。

この文書は紙を2つ折りして用いたもので、折紙と呼ばれているものです。折紙は折ったまま文字が書かれるのですが、開くと写真のように後半部分は逆さになります。

見て・聞いて — 話題の映画など満載! —

2階視聴覚コーナーには、映画等のDVDやクラシック等の音楽CDが多く配架されています。(DVD 500タイトル、CD 600タイトル、ビデオテープ 2,000タイトル)

勉学の疲れを癒すために利用してはいかがでしょうか。

カウンターで手続きを行い、館内備付のブースで視聴してください。

- 主な作品
- DVD
 - プロジェクトX
 - 冬のソナタ
 - 宮廷女官チャングムの誓い
 - 太陽がいっぱい
 - ウエスト・サイド物語
 - CD
 - クラシック音楽
 - LONDON NEW BEST 100
 - 世界民族音楽大集成

「DVD:An inconvenient truth(不都合な真実)」

今、地球があぶない。地球温暖化問題
アル・ゴア元副大統領の話題作。

2007年度ノーベル平和賞受賞

アル・ゴア関連図書(中央図書館3階開架にあり)

- 不都合な真実: 切迫する地球温暖化、そして私たちにできること
- 不都合な真実: 地球温暖化の危機; Eco入門編



Copyright (C) Paramount Pictures.& (C) United International Pictures.

地震関係資料 収集と公開

平成16年10月23日の地震発生から3年目を迎えた「新潟県中越地震」、まだ、その爪痕が残っています。そのような中で、今年7月16日に「新潟県中越沖地震」が発生しました。

度重なる地震災害。報道資料や関係の資料・図書が発行されていますが、附属図書館は多くの方々の協力を得て、いち早く「新潟県中越地震関係資料」として収集し、公開しました。

「新潟日報」「朝日新聞」「毎日新聞」「読売新聞」「産経新聞」

「日本経済新聞」の平成16年10月24日から12月31日までの地震関連新聞記事、新潟大学で開催されたシンポジウムの報告書、被災地で発行された広報誌、ニュース、映像データなど、貴重な資料を収集し保存しています。

今年起こった「新潟県中越沖地震」の関係資料についても、なるべく多く収集し、公開していくことにしています。



【主な資料】

- 「新聞記事」(平成16年10月24日~12月31日) ●新潟日報 ほか各社
- 「新潟大学災害シンポジウム 新潟県連続災害の検証と復興への視点」第1回、2回
- 「ドキュメント新潟県中越地震: 10.27奇跡の救出」●Jレスキュー編集部
- 「新潟県中越地震の復旧奮闘記」●第一建設工業
- 「激震魚沼: 魚沼市 川口町」●越南タイムズ編
- 「帰ろう山古志へ: 旧山古志村民の体験」●よしたー山古志編
- 「かわぐち地震災害対策広報」第1号(2004年11月1日)~第31号(最終号2004年12月14日)
- 「新潟県中越地震: 特別報道写真集 2004・10・23」●新潟日報社
- 「巨大地震と高速鉄道: 新潟県中越地震をふりかえって」●山海堂
- 「小千谷を襲った大地震」●小千谷新聞社
- 「平成19年新潟県中越沖地震一特別報道写真集2007.7.16」●新潟日報社
- 「7・16中越沖地震 特別記録写真集 柏崎・刈羽を直撃した震度6強の大震災」●ベースボール・マガジン社

地震関係資料に関しては、中央図書館カウンターで尋ねるか図書館のホームページをご覧ください。

体験！医歯学図書館

1 行ってみよう

医歯学図書館は医歯学総合病院の隣にあります。病院の入退院口を通過して、赤茶のレンガ色の建物が見えたらそこが医歯学図書館です。図書館への入館や貸出等利用方法は中央図書館と同じです。

但し、利用申請をした研究者は図書館閉館後もカードにより入館できます。



図書館
正面玄関

国家試験
対策図書



人気図書

- 分担解剖学(超人気のため5セット揃えました)
- ダイナミックメディスン(新潟大学医歯学系教員執筆)
- 標準シリーズ(各分野で最も利用されているもの)

2 読んでみよう

医歯学図書館は、生命科学関連分野の図書・雑誌を中心に収集しています。書架の分類も米国の「国立医学図書館分類表」を採用しており、中央図書館とは違う書架の雰囲気になれることでしょう。

1階は、保存用の古い図書・雑誌が電動集密書架に収納されています。

2階は、生命科学の基本図書が書架に並び、隣に閲覧室があります。国試コーナーには医学部・歯学部学生の国家試験受験に備え、最新の国家試験対策図書を揃えています。

マルチメディアホールには、学生用パソコン120台があります。PCを使った授業やCBTの際には利用が制限されますが、それ以外の時間はいつでも自由に使えます。

3階は比較的新しい雑誌が並んでいます。フロアにない外国雑誌でも、電子ジャーナルで見られるものもあります。



閲覧室
(個人用席)

グループ
学習室



4 覗いてみよう

3階の特別閲覧室には3文庫が保管・展示されています。

- 森田文庫／新潟県加茂市出身の蘭医森田千庵氏の旧蔵書
 - 竹山文庫／新潟医学学校初代校長竹山屯氏の旧蔵書
 - 藤田文庫／藤田名誉教授の父上である藤田恒太郎氏の旧蔵書
- 隣の特別資料室には、新潟医科大学時代からの全ての博士論文5,000点余が保存されています。

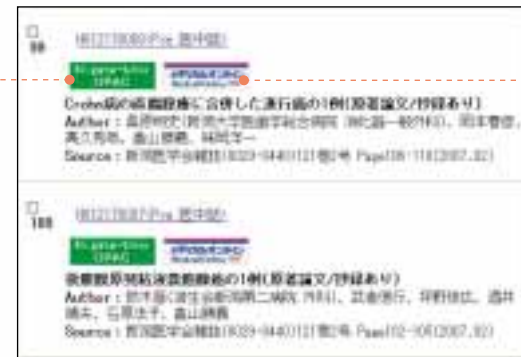


5 探してみよう — 日本語文献検索データベースと電子ジャーナル —

3頁で紹介している外国電子ジャーナルの他に、旭町地区限定で利用できる日本語のデータベースと国内の電子ジャーナルもあります。2階マルチメディアホールまたは研究室のPCからアクセスしてください。

医中誌Web

(国内で発行された医学雑誌の論文を検索するデータベース)



新潟大学が所蔵している雑誌です

クリックすると論文が読めます

メディカルオンライン

(国内で発行された医学雑誌の論文を画面上で閲覧)



図書館に行かなくても論文が読めます

3 使ってみよう

医歯学図書館は、個人用から4人用までの閲覧席が各階に配置してあり、自分のお気に入りの場所でゆったり落ち着いた時間を過ごすことができます。

グループ学習室は3人以上のグループで利用でき、勉強会などでよく利用されています。8人用と25人用の2部屋があります。1回3時間まで2週間前から予約できますので、カウンターに申し込んでください。

医歯学図書館検定

初級編



ちょっと休憩

- ① 中央図書館と医歯学図書館の両方から図書が借りられますか？
- ② グループ学習室は彼と2人で使えますか？
- ③ 図書の並び方は、中央館と同じですか？
- ④ 「メディカルオンライン」はマルチメディアホールでも見られますか？
- ⑤ 旭町地区で日本語のデータベースの他に、外国の電子ジャーナルも見られますか？

正解 ①○ ②× ③× ④○ ⑤○

特集1

大学図書館活用術

特集1

大学図書館活用術

学部資料室一覧

人文学部 人文学部合同資料室

●場所：総合教育研究棟A棟3階 ●開室時間：10:15～16:45(但し、休業期間中は時間変更あり) ●連絡先電話：(025)262-6827

学内者利用条件	学外者の利用	特 色
学生証を持参。図書、雑誌の当日貸出のみ可	利用時に一般利用者ノートに連絡先等記入。図書・雑誌の当日貸出のみ可	考古学、地域文化、日本史、日本語・日本文学、アジア文化、英米文化、ヨーロッパ文化、文化コミュニケーション関係の資料を所蔵

法学部 法学部資料室

●場所：人文社会学系D棟2階243 ●開室時間：9:30～12:30 13:30～17:00 ●連絡先電話：(025)262-6488

学内者利用条件	学外者の利用	特 色
なし	利用時に一般利用者ノートに連絡先等記入。図書・雑誌の当日貸出のみ可	主に法学・政治学関係の雑誌と図書を所蔵。主要法律雑誌の全文検索や法律判例文献情報、判例体系現行法規などのデータベースを検索できるパソコンがある。その他に法学検定、公務員試験などの資格試験の問題集、法学部の授業で指定されている教科書、参考書などあり

経済学部 経済学部資料室

●場所：人文社会学系C棟4階 ●開室時間：9:00～11:50 12:50～17:00 ●連絡先電話：(025)262-6516

学内者利用条件	学外者の利用	特 色
なし	当日貸出のみ	経済関係の図書・雑誌、統計資料・白書など所蔵

理学部 理学部図書室

●場所：理学部A棟3階304(隣室の302は閲覧室) ●開室時間：9:00～17:00 ●連絡先電話：(025)262-6137(Fax同じ)

学内者利用条件	学外者の利用	特 色
なし	なるべく事前連絡が望ましい。貸出の場合連絡先を記入	理学系の学生用図書・新着雑誌・参考図書がある。研究用図書・雑誌は別室にあり

工学部 工学部図書分室

●場所：工学部1階(学生玄関入って左すぐ) ●開室時間：8:30～17:00 ●連絡先電話：(025)262-6713

学内者利用条件	学外者の利用	特 色
学生証を持参。工学部セーフティカードで24時間入室可能(メインスタックのみ)	なるべく事前連絡が望ましい。身分証明になるものを持参	工学系の新着雑誌(バックナンバーもあり)、日本工業規格(JIS)、二次資料・科学技術文献速報(機械工学編)

農学部 農学部図書分室

●場所：農学部C棟4階 ●開室時間：9:00～17:00 ●連絡先電話：(025)262-6607

学内者利用条件	学外者の利用	特 色
学生証を持参。但し、農学部の4年生、院生、研究生は教員に配布してある「閲覧証」を持参	身分証明証を持参または、本学教職員の紹介状を持参。なるべく事前連絡が望ましい	農学系内国・外国雑誌および農学関係図書

リンネ『植物の種』(Species Plantarum) 初版(1753年) v.1,2(農学部図書分室蔵)



利用者の声を図書館に!

学生図書の選定はどのようにしているの?

附属図書館の購入図書の多くは、主として各学部等の教員の選定による「学生用図書」によっています。各分野の基本的図書の新刊の収集等を図っていますが、それでも「授業で紹介された本なのに所蔵していない」「常に貸出中で読めない」といったことは発生すると思います。

学生の目線での要求をできるだけ反映させ、必要な時期にタイムリーに図書収集を図るために、「学生希望図書」として年間を通じてリクエストを受け付けています。自分が読んで有用だった本、他の人にも薦めたい本などを、カウンターまで申し込んでください。(下記参照)

図書館に買ってもらいたい図書があるときは?

「学生用図書リクエスト用紙」で受け付けています。用紙と箱は、2階カウンターわきと、3階入口にあります。

購入できない場合はそれが決まった時に、また、購入できた場合は図書が利用できるようになったときに、掲示板でお知らせします。(注文から1ヶ月前後で入ります。)

図書館に要望や意見を言いたい

「図書館への要望・意見」の用紙で受け付けています。用紙と記入した紙を入れる箱は、1階降りる階段のそばにあります。

図書館で検討し、回答は図書館入口の掲示板に貼り出します。

私の図書館活用法

論文作成のための図書館利用法について

大学院現代社会文化研究科博士前期課程
小森 暁生



論文を作成するにあたって必ず必要となるのが先行研究です。それは図書、雑誌、報告書、マイクロフィルムなど多岐に亘るものですが、新潟大学附属図書館には論文に利用できる資料がたくさん所蔵されています。論文作成者は手続きをすれば他の学生よりも多く本を借りることができるので、手続きをすることを勧めます。開架二階や三階にも図書が並べてありますが、論文作成時には一階の書庫を利用することが多いと思います。書庫へは受付で手続きすれば簡単に入ることができますが、他の階より利用時間が限られており、土日は入れないので注意しましょう。また自分の専門分野に関する棚周辺の図書も眺めておいた方がよいです。なぜなら書庫の図書もOPACで検索可能ですが、データが入っていない図書もあり、貴重な資料が隠れている場合があるためです(検索漏れということもあります)。さらに図書の場所を覚えておけば、次回書庫へ来るとき資料を探す時間が省けます。新潟大学附属図書館に所蔵がなく、他大学に所蔵されている資料は取り寄せたり、複写をとったりすることができます。取り寄せや複写は有料で、資料の全複写は著作権の問題上できませんが、パソコンで申し込めるので必要な時は利用してはいかがでしょうか。

私の大学院研究における図書館の利用法

大学院自然科学研究科博士後期課程3年
荒谷 洋輔



数理学や情報科学関連の大学院での勉強は、英語で書かれた論文をセミナーで紹介を行うために内容を丁寧に読み進めることが中心的課題で、さらに発展して新しい知見を提案する自分の論文を書いたりするのが目標です。私が論文を本格的に読み始めたのは修士課程2年の初めあたりで、きっかけは私の先生の研究仲間が書いたドラフトでした。このドラフトの参考文献を探すために図書館を利用したのが始まりです。そこで見つけた論文は今の私の研究の核となっています。でもその当時、私はその論文の内容をほとんど理解できなかったため、その論文の参考文献をまた図書館で調べました。その作業を繰り返すうちにおぼろげながら内容がわかってきました。数学という特定のジャンルでも幾多の雑誌がある中、だいたいのがこの図書館で見つかったのは大変助かりました。

さらにMathSciNetという、ネットでの検索システムがあります。上記の調べた論文も今では概ね閲覧可能で、非常に便利なものです。ただし、まだ閲覧できない雑誌もあり、図書館に足を運んで実際に調べてみることも必要だと感じています。

特集2 新潟県 中越沖地震

～新潟大学の活動～

平成19年7月16日に発生した新潟県中越沖地震。

死者14名、重軽傷者2,315名、住家約41,000棟などに及ぶ被害がありました。

地震発生後、新潟大学は各方面から被災地を支援。その活動の一部を紹介します。

中越沖地震の背景となった地質構造と地盤変状

理学部地質科学科 講師 小林健太

2007年新潟県中越沖地震は出雲崎沖合の深さ約10kmを震源として発生しました(図1)。地震発生当日から、新潟大学自然系や災害復興科学センター教職員・院生・学生による調査が行われました。その概要は新潟大学調査団ホームページや、10月5日に新潟大学にて開催された報告会で公表されています。理学部担当教員によるものとして、地盤変状や構造物被害(小林・豊島・卯田)、斜面崩壊や液状化(卜部・高濱・渡部)、海底や古木(立石・宮下)、GISを用いた調査(山岸)があります。また日本地質学会(9月10日)や日本地震学会(10月24日)でも、地質学・地震学・測地学などの観点から最新のデータが紹介されました。しかし今に至っても、地震を起こした“元凶”の実態は充分理解されていません。本小論ではこの“元凶”について解説するとともに、我々が被災地で行った調査結果を紹介します。



図1 本震・余震域分布と地質、原図は産総研(2002)、気象庁(2007)データを加筆

地震発生の“元凶”は地下にある震源断層のずれです。その姿勢や長さは本震と余震の分布から推定されます(図2)。ところが中越沖地震ではそれらの分布が明確に判っていません。地下地質構造が複雑で、そこを伝わる地震波速度を単純に決められないことが一因です。震源断層の傾斜方向も北西説と南東説があります。

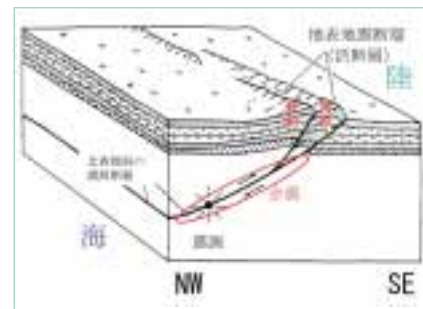


図2 断層と地震の関係、松田(1992)に加筆

話を進めるため、ここでは北西(海側)に傾斜する震源断層を想定します(図2)。この場合、震源断層は南東(陸側)ほど浅くなります。中越沖地震の規模(M 6.8)だと、震源断層のずれは地表まで達したり達しなかったりします。達したものを地表地震断層、過去数10万年間に繰り返し活動した地表地震断層を活断層と呼びます。地表で活断層

が認定されれば、その地下で過去に何度も地震が発生し、今後も発生する可能性が高いです。また震源断層があと一歩で地表まで達しなかった場合も含め、上にある地層は曲げられ背斜を形成することが多いです。図1の地質図をみると、震源の南東にある丘陵では背斜が複数形成されています。地表地震断層は背斜の前縁(北西傾斜の震源断層だと南東側)にあることが期待されます。

以上の観点から、大規模な背斜や既知の活断層周辺を主に調査しました。もし中越沖地震に伴う地表地震断層が見つければ、北西傾斜の震源断層を意味する証拠となります。ところがいずれの地域においても、それを示唆する地盤変状は認められませんでした。

中越沖地震発生10日後、その震源断層と鳥越断層(図1)が地下で連なっているのではないか、との説が東大地震研によって発表されました。鳥越断層はその南・北にある別の活断層と連動し、M8.0の巨大地震を引き起こす可能性があります。今回鳥越断層がずれたか否かは、今後の地震発生確率の評価にも影響し重要な問題です。東大の説は浅層や地表での変状を考慮しておらず、それを検討する必要が生じてきました。

我々は9月以降数回に渡り、鳥越断層露頭の精密な記載を行いました。その様子はNHKの取材を受け、10月16日「おはよう日本」などで放送されました(図3)。

鳥越断層は北西傾斜の逆断層であり、数10万年前の地層に実移動で6m以上の変位を与えることが明らかになりました。また5回のすべりイベントを識別しました(図4)。この識別は、断層ガウジ帯(すべり変形に

伴う変質で形成された断層岩類)、酸化鉄の沈殿と、すべり面との切断関係に基づきます。重要なのは、断層に沿う新たな破断がどこにも認められないことです。ここでの



図3 取材風景、中央の白い帯が鳥越断層

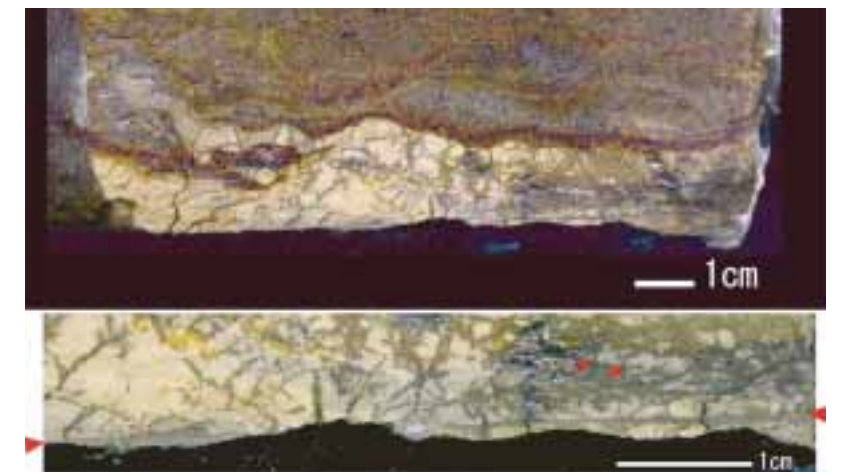


図4 鳥越断層で識別されたすべりイベント1～5

最新活動は中越沖地震より前に生じています。さらに断層ガウジ帯を含む試料を採取し、エポキシ樹脂による硬化処理を施した後、切断面をオイルを用いて研磨しました。研磨面では側岩に注入するガウジ脈が明瞭に観察されました(図5)。これは地震時の高速すべりに伴って、ガウジが急激に膨張したことを示しています。

中越沖地震に伴い明瞭な地表地震断層は出現しませんでした。鳥越断層は深層で中越沖地震の震源断層に連なる可能性があります。その場合でも今回は震源断層の変位は地表までは到達していません。一方で、露頭の証拠から浅層における過去の地震性すべりイベントの存在は確かです。したがって、過去に鳥越断層(と連動した断層)の活動によって、今回よりも大規模な地震が繰り返し発生した可能性が高いです。そのような地震は当然ながら今後も発生します。それを前提として、被災地の復興や次なる災害対応準備を支援することが、新潟大学の責任であると考えます。

図5 ガウジ脈(上図)と最新すべり面(下図)、研磨作業は大川直樹



新潟県 中越沖地震

～新潟大学の活動～

中越沖地震における医療支援

医歯学総合病院
地域医療教育支援コアステーション 講師 井口清太郎



1 柏崎市元気館救護所
処置をする新潟大学医歯学総合病院派遣の医療班
2 北陸自動車道新地蔵トンネルを越えた付近
道路の大きな亀裂が見られる
3 西山町の国道116号線
至る所に大きな段差ができていた
4 柏崎市内
地震により被害を受けた電柱

医療支援第一陣として参加

平成19年7月16日午前10時13分に発生した新潟県中越沖地震は、柏崎市を中心とした地域に大きな被害をもたらしました。新潟大学医歯学総合病院は直ちに医療派遣を行うことを決定し、同日午後0時30分第一陣として医師3名、看護師1名、事務1名による医療派遣を行いました。私もこのとき、第一陣として参加、現地に向かいました。被災の中心地が完全に把握できず、どこに向かうか迷いましたが、まずは地域の基幹病院でもある刈羽郡総合病院に向かいました。



道路の被災情報は皆無でしたが高速道路に乗り柏崎市へ向かいました。北陸道は長岡ジャンクションより先へは一般車両は進入することができませんでしたが医療派遣であることを明示し、通行することができました。しかし北陸道大積パーキングを超えたあたりから路面状況が悪化、新地蔵トンネルを越えると一部に崩落した道路も出現、時々大きな段差もあり、かなり注意しながら走行しました。西山インターより先へは全面通行止めのため、ここで高速道路を降り、国道116号線に出ました。一般道では激しい渋滞がありましたが運良く警察車両がきたため事情を説明し、警察車両に先導してもらい刈羽郡総合病院へ向かいました。

我々が刈羽郡総合病院に到着した時点で既に県内外のいくつかの医療チームが到着し、活動を開始していました。先着したチームは、重症患者の選別、搬送先へのヘリの手配などを行っていましたが、全体として大混乱の様相を呈していました。我々は軽症患者についてほとんど手が付けられていないとのことだったので、大学から持参した処置セットを用意し、軽傷の外傷



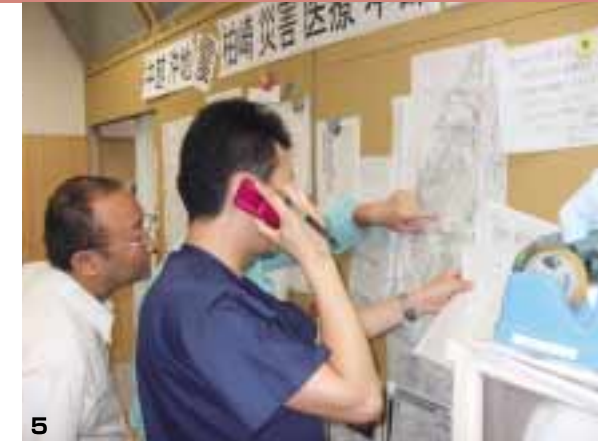
患者を診察・対応しました。また大学へ搬送する患者がいるとのことで、それに関する連絡を大学病院に直接連絡し対応しました。またこの頃、大学からの第二陣、第三陣も到着、彼らも同様に軽傷患者の処置を担当しました。

午後5時過ぎに刈羽郡総合病院では電気が一部で復旧し、放射線科の検査が可能になりました。その後、電気が復旧した新館の1階に軽傷患者の診療場所を移し、そこに受付も設置、夕方に向かい診療に訪れる外傷患者の処置に当たりました。午後6時半を過ぎ、現場も体制が整いつつあり、また各地の医療チームもたくさん応援に来たことから、大学病院からの医療派遣は連絡係も兼ねた医師2名を残し、この日は大学に戻ることにしました。

システムとしての医療支援

翌17日(2日目)以降は刈羽郡総合病院からの要請に基づき大学病院からは整形外科の医師を派遣し、処置を担当しました。また新たな医療班も結成、避難所の巡回診療を担当するために派遣されました。同日夕刻、それらのメンバーからの報告を受け、被災後48時間で様々な医療チームの出入りがあり医療支援体制の変化があることから、それらを統轄する組織の立ち上げが必要なことなどが検討されました。その結果、被災3日目となる18日より、医療サポートチームを現地の医療需要に併せてマネジメントできる人材を大学病院から派遣することとなりました。

そこで通常の医療支援とは別にマネジメントのための医師を18日から現地に派



5 柏崎市元気館
災害医療本部では情報を集約化した
6 厚生連刈羽郡総合病院救急受付の前
活躍する各地から集まったDMAT
7 柏崎市元気館
元気館は支援物資の集積地でもあり、
全国から送られてきた支援物資が山積
されていた
8 柏崎市元気館救護所
受診した患者さんを診察する新潟大学
医歯学総合病院派遣の医療班

遣して地元保健所、医師会と協働し、その後にはわたる現地の医療マネジメント体制を構築しました。またそのための拠点として柏崎市の保健、福祉の拠点複合施設である元気館に災害医療本部を設置、そこに関係職員が詰め、避難所の状況、要診察者の有無、現地へ出入りする医療チームなどに関する情報の集約化・指示の一本化が行われました。刻々と需要と供給の変化する現場にあって災害医療本部は重要な役割を果たしました。また巡回診療などの医療支援についても大学病院からは被災後2週間にわたり継続して行われました。8月3日以降は徐々に縮小する避難所の規模に応じて全体のシステムを適宜縮小し、8月16日ライフラインがほぼ復旧したこと、仮設住宅が一部完成し入居が開始されたことなどから、これまで行われてきた医療チームによる避難所の巡回などの医療支援を終了しました。

今回の震災では先の中越地震の反省を生かし、医療支援全体を統括する組織を立ち上げ、変化する需要と供給を現場にあってマネジメントしたことが大変有効でした。今後、起こりうる同様の災害時にも生かせる考え方だと思われます。

新潟県 中越沖地震

～新潟大学の活動～

中越沖地震被災地からの文化財・歴史資料調査・救出活動

人文学部教授 矢田俊文

2007年7月16日の中越沖地震で大きな被害を受けた柏崎は、16世紀に自治都市として栄え、江戸時代を通じて町人の町でした。

私は、7月19日に柏崎に入り、柏崎の土蔵・図書館に所蔵される文化財・歴史資料等の調査を行い、22日には救出活動を行いました。8月4日には、市民からの依頼を受けて歴史資料の調査を行い、8月25日には多くの方々とともに刈羽村の民具500点の救出活動を行いました。

これらの調査・救出活動に取り組むなかで明らかになってきた文化財・歴史資料の地震対策について考えてみたいと思います。

7月19日に調査した土蔵は諏訪町・東本町と西本町の一部でしたが、やはり土蔵は地震に弱いことを確認しました。町家は間口がせまく奥に細長く建てられているのが特徴ですが、通りに面した店舗は鉄筋造りで大丈夫であっても、奥にある土蔵は甚大な被害を受けていました。

図書館については柏崎市立図書館・新潟産業大学・新潟工科大学の状況を各図書館職員の家内を見て廻りました。3館とも書架と書架を連結させるなどの地震対策が取られていて、書架の転倒はなく、また柏崎

市立図書館では、中越地震の反省から落下防止のためのテグスが張られ、今回の地震では、そのテグスによって仏像は落下を免れていました。柏崎市立図書館には、三条市と長岡市の図書館職員の方がボランティアで応援に来ていました。公共図書館は館相互の連携により、すぐさま応援体制が取られたようです。横の連携の重要性を実感しました。

7月22日には、新潟歴史資料救済ネットワーク(新潟資料ネット)2名と東北芸術工科大学を中心とした山形県の文化財歴史資料救出グループ4名で、柏崎市西本町の商家A家の文化財・歴史資料の救済活動を行いました。A家は19日に調査に入ったさい、柏崎市立図書館からの情報で調査に伺っ

たところでしたが、倒壊した土蔵の様子から救出活動は無理だと考えていた場所でした。

大型重機が屋根や梁を落とす作業の間にさまざまな資料を救い出しました。倒壊を免れていた奥の建物から、陶磁器等とその家の歴史資料の目録写真帳、家族のアルバムを救い出しました。資料はワゴン車2台分で、24日に新潟県立歴史博物館に移されました。

8月3日、「チラシを見た」という柏崎市民から新潟資料ネットに連絡が入り、資料について相談がありました。そのチラシは、28日には、柏崎市災害対策本部の決定で柏崎市総合企画部文化振興課から避難所に配布された「被災地区の皆さんへ!—歴史資料についてのお願い—」というチラシでした。このチラシに書かれている問い合わせ先は、新潟県立歴史博物館・新潟県立文書館と新潟資料ネット(新潟大学人文学部矢田研究室気付)となっています。連絡をうけ、翌日、状況調査に向き、資料の一時避難のお手伝いをすることを約束しました。後日連絡があり、さいわいこのお宅は自力で歴史資料の救出をされました。

このお宅では、避難所に置かれる各種チラシを持ち帰り、片付け作業をする自宅前のガレージに大切に貼付けられていました。「被



- 1 柏崎市西本町A家での資料救出活動 (2007年7月22日)
- 2 柏崎市B家に張られていた避難所へ配布されたチラシ (2007年8月4日)
- 3 刈羽村民俗資料収納庫での民具の梱包作業 (2007年8月25日)
- 4 刈羽村民俗資料収納庫からの民具の搬出作業 (2007年8月25日)
- 5 救出した民具の搬入作業 (旧寺泊高校/2007年8月25日)
- 6 旧寺泊高校へ搬入した被災地の民具 (2007年8月25日)



災地区の皆さんへ!—歴史資料についてのお願い—」というチラシもそのうちの一つです。そのお宅の方が避難所に配布されるチラシは「命の綱」であると話されていたのは印象的でした。災害(震災)後、相談先を明記した歴史資料救済のためのチラシが自治体を通じて避難先に届けられることの重要性を改めて認識しました。

25日は、刈羽村民俗資料収納庫の民具を、刈羽村教育委員会・新潟県立歴史博物館に協力して、新潟大学災害復興科学センターアーカイブズ分野と新潟資料ネットが、4トントラック3台で旧寺泊高校(長岡市)に一時避難させました。参加者は、新潟大学19人、新潟県立歴史博物館5人、越佐歴史資料調査会1人、十日町情報館1人、新潟市博物館1人、高校教員6人、新潟県立文書館1人、東北芸術工科大学3人、山形県高島町役場1人、ふくしま文化遺産保存ネットワーク1人など計40人でした。

新潟資料ネットは、中越地震後にできた

文化財・歴史資料救済のボランティアグループで、事務局は新潟大学人文学部に置かれています。山形の文化財救済グループも中越地震後にできた組織です。また、この取り組みの指揮をした新潟県立歴史博物館は、中越地震後、文化財・歴史資料救済活動を館の業務として位置づけていて、今回の刈羽村の救出活動では一時避難場所として旧寺泊高校を確保しています。新潟県立歴史博物館、新潟資料ネット、山形の文化財救済グループは平時において交流を行っていて、今回の取り組みはそのつながりが活かされました。

2004年の中越地震被災地から救出した文化財・歴史資料を小千谷や山古志に戻す作業がまだ終わっていません。今回の中越沖地震被災地からの資料も運び出しただけです。文化財・歴史資料の救出活動は緒についたばかりです。今後とも、中越地震・中越沖地震被災地の地域文化の復興と再生に取り組んで行きたいと思います。

新潟県 中越沖地震

～新潟大学の活動～

学生たちの ボランティア活動

学生ボランティア本部

傷

私が初めてボランティアに行ったのは8月1日の刈羽村でした。刈羽村では電柱が傾き倒れ、道路に亀裂が入っていました。私は地震の凄まじさを目の当たりにしました。

新大生の大半は『ピカピカ隊』と呼ばれる隊として、子どもたちの相手をしました。何故私たちがというと年齢が他の大人よりも近いからです。

その日は小学校へ行って勉強を教えました。そこには食欲がない、怖い夢を見た、毎晩眠れないなど震災の傷を心に負った子どもがいました。

避難所へ行った日は、88歳のおじいちゃんに会って様々なことを話しました。そのおじいちゃんは新潟地震・中越地震・中越沖地震と3度の地震を体験していました。中越地震で自宅が半壊したため仮設住宅に入り、家を新しくしたそうですが今度は全壊したという話を聞きました。また「自分の家で死にたかった。」と悲しそうに言っていました。私はただ黙って聞いていることしかできませんでした。

また別の日は、ラピカ(避難所)に行きました。そこには静かに本を読んだり勉強す

工学部 1年 福野陽平

るスペースで、そこで子どもがうるさくして大人ともめたり、ボール遊びをして一般の方にぶつけて問題になったりしました。これらは大人の主張と子どもの遊ぶ場所の不自由さから生じた問題でした。

老夫妻の家で家財を運び出すボランティアもしました。その夫妻の家の周りは全て倒壊してしまいました。幸いその夫妻の家は少しの被害で済みましたが、近所の方々がみな仮設住宅に移ってしまい、その夫妻だけがその場所に取り残されてしまっていました。話す相手がいなくてさみしかったようなので作業が終わったあと数時間話し込みました。

これら以外にも様々なことを見てきました。ボランティアをすれば傷つくことがあります。正直何度もこんな体験はしたくないです。つらいです。すべての人にもう少し防災意識があれば傷は小さくて済んだのかもしれない。



1 地震に耐えられずに倒壊した住宅
2 道路の亀裂
3 線路がゆがんでいます
4 線路に横たわる電柱

準硬式野球部

いま自分にできること

経済学部 3年 高田英範

平成19年7月16日新潟を再び大きな地震が襲いました。3年前に起きた中越地震のとき、私はまだ高校生で地元が群馬県ということもありボランティアに参加することができないでいました。だからこそ今回はボランティアに参加しようと思ったのですが、1人ではなかなか行動を起こせませんでした。そんな中、大学から準硬式野球部で被災地である刈羽中学校に野球部の部活動支援に参加してくれないかと言われ、私はすぐに部員と相談し参加することを決めました。

ボランティアの当日、他の部員たちと一緒に学校が用意してくれたバスに乗り、被災地である刈羽村に向かいました。被災地が近づいてくるとバスの中から見える景色は私の想像していた以上のものでした。倒壊した家屋、屋根を覆うブルーシート、大きくけずられた山、それは私が初めて目にした光景であり、同時に私の頭には一抹の不安がよぎりました。いったいここで自分に何ができるのか、と。

現地に着き、他のボランティアの人たちとミーティングをしたのち、私達はすぐに刈羽中学校の野球部員のもとへ向かいました。向かっている途中、もしかしたら被災のショックで満足に部活に取り組めていないのではという不安もあったのですが、着いてみるとその不安は一気に吹き飛びました。そこには被災のショックなど微塵も感じさせず元気に野球に取り組む生徒たちの姿がありました。そのとき私は思いました。いま自分にできること—それは一緒に共通の野球をやることでもっと元気になってもらうことです。一緒にキャッチボールやノックをしただけの活動でしたが、最後に生徒たちに「お兄さん今日はありがとう」と言われ、ボランティアに参加して本当によかったなと思いました。夏休み中の活動だったため今は行けないのですが今も野球部の生徒たちは元気に白球を追いかけけていることと思います。

メタボリックシンドロームは 学生にも身近な問題

保健管理センター所長 鈴木芳樹

健康 コラム

メタボリックシンドロームの声を聞かない日はないほど“メタボ”は日常的になり、用語としての認知率は9割に及びます。しかし、若者の内容正答率は3割で、中高年の問題と捉えている、きちんと意味を理解していない学生が少なくありません。本学でも、メタボに該当する学生は存在し、学生こそが身につけるべき知識です。

高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病は、各々が独立した病気ではなく、肥満、特に内臓に脂肪が蓄積した内臓脂肪型肥満の存在が重要と理解されるようになりました。太ももやおしりを中心に蓄積した肥満は、皮下脂肪型肥満とよびます。

メタボは以下のステップで診断します。

必須項目は、内臓脂肪の蓄積を表すウエスト周囲(腹囲)径です。立ったまま軽く息を吐いて、へその周囲をメジャーで測ります。

- 男性で85cm以上、女性で90cm以上が該当します。

次に、以下の選択項目のうち、2項目が該当するとメタボです。

- 収縮期(最大)血圧が130mmHg以上かつ/または拡張期(最小)血圧が85mmHg以上。
- 血中トリグリセライド値が150mg/dL以上かつ/またはHDLコレステロール値が40mg/dL未満。
- 空腹時血糖値が110mg/dL以上。

血圧、血中脂質および血糖値は、高血圧、高脂血症および糖尿病の診断基準よりも低く、予備群を拾い上げるようになっていきます。該当項目が増加あるいは悪化すると、これらの生活習慣病への移行・増悪と、最終的な心血管病のリスクが増大します。

学生の定期健診には上記の血液検査がないため、メタボと診断することはできません。しかし、腹囲と血圧値から、該当するか否かの判断はできます。該当する学生にはセンターで個別指導していますが、心配な学生は医療機関で血液検査を行って下さい。

昨年度の本学学生の定期健診における腹囲の該当率は、男子で11.6%、女子で0.8%でした(スポーツ競技者も含む)。その男子のうち、血圧値も該当したのは61.9%でした。メタボに該当する可能性のある男子学生の少ないことが問題ですが、若年者では食事・運動療法で速やかに改善する可能性が高いため、放置しないことが最も重要です。

Metabolic Syndrome



学務部からのお知らせ

あなたも参加
してみませんか!

「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」 ダブルホーム制による、いきいき学生支援

平成19年度文部科学省事業「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」において、本学が提案した「ダブルホーム制による、いきいき学生支援～地域協働による、学生の自律を目指す、予防的環境の構築～」が採択されました。

「ダブルホーム制による、いきいき学生支援」の活動内容

本取組は、皆さんが日常を過ごす拠点(ホーム)を、学部・学科・学年の領域を越えて形成するものです。研究室やゼミ等、学部・学科の専門教育を行う従来の拠点である第一のホームに対して、新しい第二のホームは、文系・理系・医歯系の学生が集まる総合大学の特性を活かし、学部・学科・学年を越えて構成します。

第二のホームでは、本学の教員が地域と連携して取り組んでいる教育プログラムや研究プロジェクトを、地域住民の立場から調査活動を行うものです。現在、第二のホームでの活動を予定しているプロジェクト等は、長岡市栃尾地区で行っている「雁木(がんぎ)づくり」、佐渡市で行っている「民俗調査プロジェクト」、新潟市西区で行っている「西区DEアート」のほか、中国・韓国等の国際交流協定締結大学の研究プロジェクトの関係者、教員・学生との交流、学内の最先端の研究等です。どのプロジェクト等の調査活動を行うかは、それぞれのホームで決定することになります。また、長岡市や佐渡市へのバス等は大学で支援します。



「ダブルホーム制による、いきいき学生支援」での効果

本取組を実施することにより、様々な効果を期待しています。

- 自分を生活者(地域住民)の立場に映すことや多様な価値観の人たちと話すことにより、将来皆さんが直面する困難な課題に適切に対応できる力やコミュニケーション能力が養われます。
- 各自の専門性を生活者の立場からより深く認識することで、学習への強い動機が得られます。
- 学部・学年を越えた、第二のホームで活動することにより、学生生活をいきいきとしたものに変えて、悩みに陥ることを未然に防ぐ環境が構築されます。
- 第二のホームでのネットワークは卒業後も、皆さんの生活や専門性を支援する財産となります。

■お問い合わせは 学務部学生支援課学務企画係 025-262-6309

CAMPUS INFORMATION

第48回新大祭

10/27(土)・28(日)

新大祭を振り返って

第48回新大祭のテーマは「縁心力!」でした。このテーマに後押しされるように、五十嵐キャンパスでは、たくさんのお客さんが交流を深めていました。そんな今年の新大祭を少しだけ振り返ります。

初日に開催された「武田修宏トークショー」では、多くの観客が武田さんのお話に耳を傾けていました。また、「プリンセスコンテスト2007」では、6人の出場者が華やかにステージを彩り、魅力あふれるアピールで観客を湧かせました。

2日目に行われた「音速ラインライブ」も、彼らの爽やかな歌声に多くの観客が聞き入っていました。そして、学生参加のバラエティ企画「プロポーズ大作戦」では、ステージ前が笑い声でいっぱいになりました。

今年の新大祭も盛り上がり、大成功だったと思います。

第48回新大祭常任委員会委員長 工学部3年
加藤 和明



熱気あふれる音楽系サークルのライブ



パルーンで飾り付けをした工学部会場



工学部で制作したソーラーカーの展示



元サッカー選手を招いてのトークショー

トークショー



総おどりで雨を吹き飛ばした学生たちの熱演



多くの来場者でにぎわう新大祭会場

新潟大学Week

10/22(月)~28(日)

新潟大学の活動状況を広く社会の皆様へ紹介する「新潟大学Week」を、10月22日~28日の間、実施しました。

昨年に引き続き、3年前の新潟県中越地震の被災地・川口町の農家によるおにぎりの無料配布では長蛇の列ができ、1000個ほど作られたおにぎりがすべて無くなるほど盛況でした。また、教育人間科学部玄関前では「学生による書作実演」が行われ、畳一畳を超える大きな紙の上に学生が書作を書きあげるパフォーマンスに、多くの人が足を止め、学生の筆さばきに見入る風景も見られました。

4年目となる今年は、恒例の新大祭や全学同窓会との交流会をはじめ、研究紹介、学部紹介、体験型企画、農場生産物販売、入試体験、学生の作品や貴重資料の展示など、新潟大学の魅力が詰まった30余りの企画が行われ、市民の方々や高校生など多数の参加があり、キャンパスは活気で満ち溢れていました。



学生による書作実演のパフォーマンス(教育人間科学部玄関前)



高校生のヴァーチャル入試体験



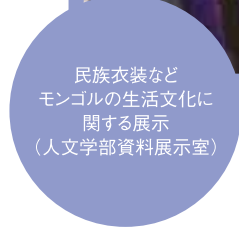
理学部ミュージアムでの岩石・鉱物・化石の展示



民族衣装などモンゴルの生活文化に関する展示(人文学部資料展示室)



おにぎり無料配布の前の長蛇の列(農学部玄関前)



炭火焼手作りソーセージの販売



編集後記

今回は、新潟大学の図書館を特集します。知の大きな集積場であり、知の有力な発信源でもある図書館は、知らぬ間に変化をとげて、学生諸君の旺盛な知的探求心を満足させる刺激的な施設となっています。さらに、中越沖地震における大学の取り組みも特集します。地域に貢献する大学の姿を御覧下さい。

●編集委員長 石坂妙子

今回の特集「大学図書館活用術」は文献で学ぶ環境についての記事でした。また、「中越沖地震」は学んだことを社会に生かす活動の記事でした。学びの基本が思考と実験実践であるとするれば、今回の記事は大学での学びの両方向についてのトピックでした。大学での図書館環境を生かして学び、その成果を社会に活用していく。そしてそれをまた学びの契機とする。そのサイクルの実現を感じました。

●編集委員 竹内照雄

今回の特集の一つは、附属図書館の紹介です。分かっていたようでも、まだまだ奥の深い使い方が隠れているようです。電子ジャーナルなどのデジタルコンテンツも充実していますが、新大ならではの貴重な古文書などもあるのです。大学の図書館をフル活用できるのは学生の間だけかもしれません。この冬、図書館にどんどん足を運んで下さい。

●編集委員 末吉 邦

今号の特集は図書館と新潟県中越沖地震。五十嵐地区の学部資料室は時に利用するのですが、これまで利用したことのない、しかし時に必要な図書を所蔵している医歯学図書館の様子をはじめと知りました。中越沖地震の記事では、様々な活動が、2004年の中越地震の教訓を生かして取り組まれたことがわかります。ボランティア活動も含めて、持続した活動の必要性を痛感しました。

●編集委員 井村哲郎

高校までの図書館とは、趣が全く違う大学の図書館を利用していますか?授業とクラブ活動が忙しくてという人たちこそ、少しの時間を割いて是非覗いてみましょう。きっと新しい発見があるはずですよ。脳外科の父と呼ばれた俳人でもあった新大の中田瑞穂先生が、句碑に「学問の静かに雪の降るは好き」と残されています。新潟に居てこそ体験できる、まさにうってつけの季節が間近です。

●編集委員 田口 洋

広報委員会第1部会

部長・編集委員長

石坂妙子(教育人間科学部)
ishizaka@ed.

委員

田中拓道(法学部)
takujit@jura.

芳賀健一(経済学部)
haga@econ.

竹内照雄(理学部)
takeuchi@math.sc.

柴田 実(医学部医学科)
mshibata@med.

五十嵐敦子(歯学部)
atsuko@dent.

加藤大介(工学部)
dkato@eng.

末吉 邦(農学部)
sueyoshi@agr.

井村哲郎(大学院現代社会文化研究科)
imurat@human.

寺尾 仁(大学院自然科学研究科)
terao@eng.

横山峯介(脳研究所)
myoko@bri.

田口 洋(大学院医歯学総合研究科)
yo@dent.

馬淵憲治(学務部長)
kmab@adm.

事務局(学務部)

TEL 262-6309 FAX 262-6304

E-mailのアドレスは、
niigata-u.ac.jpの標記を省略しています。

■新潟大学ホームページ <http://www.niigata-u.ac.jp/>

新大広報 Back Number http://www.niigata-u.ac.jp/gakugai/pr/c_forum/

新大広報のバックナンバーは上記のURLから見るができます。また、学務部学生支援課で受け取ることもできます。



新潟大学広報誌

Niigata University
Campus Magazine

新大広報



2007年 冬号

編集・発行 / 新潟大学広報委員会・新潟大学学務部
印刷 / 株式会社第一印刷所